

「マクロ経済学Ⅰ」試験解答用紙

満点125点

(担当者名：蓮見 亮)

2013年7月19日(金) 9:30~10:30 施行	学部	学科	年	組
・試験時間 60分、解答用紙全2ページ ・問題用紙別 ・持ち込み不可 ・電子機器の使用不可	学生証番号			
	氏名			

問1. (各1点×57=57点)

(ア) 生産性	(イ) 技術知識	(ウ) 物的資本
(エ) 国民貯蓄	(オ) 失業者	(カ) 失業者
(キ) 労働力	(ク) 部門間シフト	(ケ) 摩擦的失業
(コ) 構造的失業	(サ) 交換手段/計算単位	(シ) 計算単位 (サと順不同)
(ス) 流動性	(セ) 商品貨幣	(ソ) 不換紙幣
(タ) 不換紙幣	(チ) 公開市場操作	(ツ) 貨幣供給量
(テ) 利子率	(ト) 流動性選好理論	(ナ) 貨幣供給量/利子率
(ニ) 利子率 (ナと順不同)	(ヌ) 貨幣数量説	(ネ) 流通速度
(ノ) 貨幣供給量	(ハ) 古典派の二分法	(ヒ) 貨幣の中立性命題
(フ) 名目変数	(ヘ) 実質変数	(ホ) 短期
(マ) 長期	(ミ) 短期的	(ム) 総需要・総供給モデル
(メ) 右下がり	(モ) 垂直	(ヤ) 右上がり
(ユ) 右下がり	(ヨ) 利子率効果	(ラ) 垂直
(リ) 物的資本/技術知識	(ル) 技術知識 (リと順不同)	(レ) 右上がり
(ロ) 物価水準	(ワ) 期待	(ヲ) 自然産出量
(ン) 硬直賃金理論	(A) 政府支出の増加や減税	(B) 総需要曲線
(C) 中央銀行	(D) 総需要曲線	(E) 期待物価
(F) 短期	(G) 自然産出量	(H) 左方
(I) スタグフレーション	(J) 総需要曲線	(K) 物価水準の上昇

問2. (各4点×6=24点)

(1)	100 兆円	(2)	8 兆円	(3)	520 兆円
(4)	474.8 兆円	(5)	1.2 %	(6)	0.4 %

問3. (各8点×4=32点)

(1) 一定期間において、一国内で生産される全ての最終的な財・サービスの市場価値
 (「一定期間において、一国内で生産される財・サービスの付加価値の合計」でも可)

(2) 家計・法人によるより多くの財・サービスを生産するために将来使用される財の購入
 であり、設備、建造物の購入の総額をいう。

(3) **実質GDP** のほうが優れている (部分点2点)

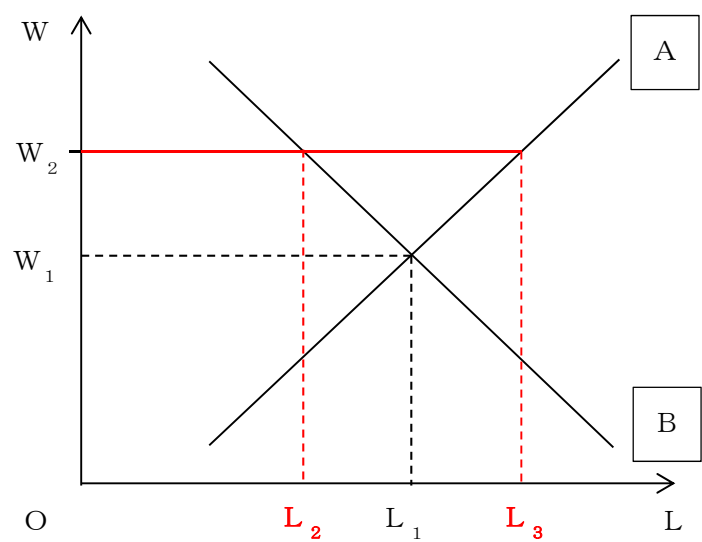
理由 過去と比較して現在の名目 **GDP** が増加していても、物価が同率で上昇していれば、
 現在が過去に比べてより豊かになったとはいえないから。

(4) **GDP** には余暇の量や質、環境の良さ、国民の健康の価値が反映されない点で、
 不十分である。

問4. (各1点×4+8点=12点) (1)

①	家計	②	供給	③	企業
④	需要				

(2)



雇用される労働者は、図中における L_2 、
 失業者数は $L_3 - L_2$ である。